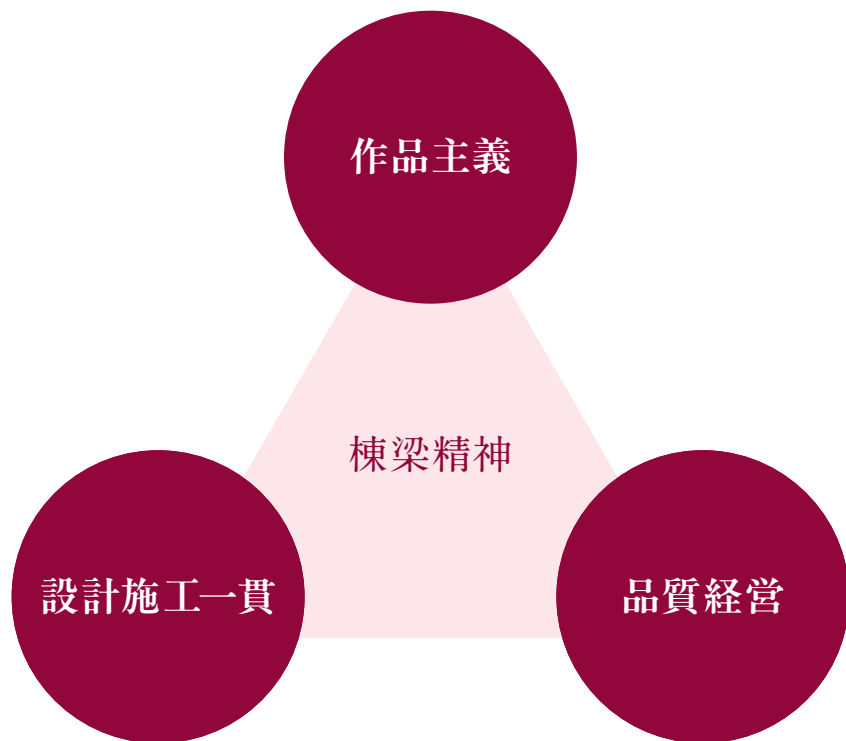


当社は1899年の創立以来、棟梁精神に基づく作品主義と品質経営を貫いてまいりました。これまでの長きにわたる営みの中で幾多の環境変化が訪れましたが、「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」という経営理念、「正道を履み、信義を重んじ堅実なるべし」を第一とする社是を原点としてまちづくりの取り組みを続け、広く社会とお客様からの信頼をいただいています。これからも、当社グループに求められる社会課題の解決やお客様の想いにお応えできるよう確実な歩みを続けてまいります。

2026年4月

最良の作品を世に遺し、社会に貢献する



新たな価値を創造して社会の要求にこたえるために、
「リジェネラティブ」な考え方と姿勢で重点3分野にグループで統合的に取り組む



気候変動、災害、紛争、加速する少子高齢化など、社会環境は人々の予測を超える変化を続けています。また、当社グループやステークホルダーを取り巻く事業環境においても急速な変化が続いており、企業に求められる責任や期待される役割も劇的な転換期に差し掛かっています。こうした中、新たな価値を創造して社会課題の解決に貢献し続けていくために、「リジェネラティブ」な考え方と姿勢で品質の高いものづくり・サービス提供を目指すとともに、グループとして取り組む重点的な分野を「環境共創」「技術革新・DX」「人材活躍」に定め、地球をより健全で豊かな状態で未来の世代に引き継いでまいります。そして、ひとが輝く感動のものづくりを進め、魅力ある企業グループとして社会に貢献してまいります。

2026年4月

取締役社長

丁野 成人

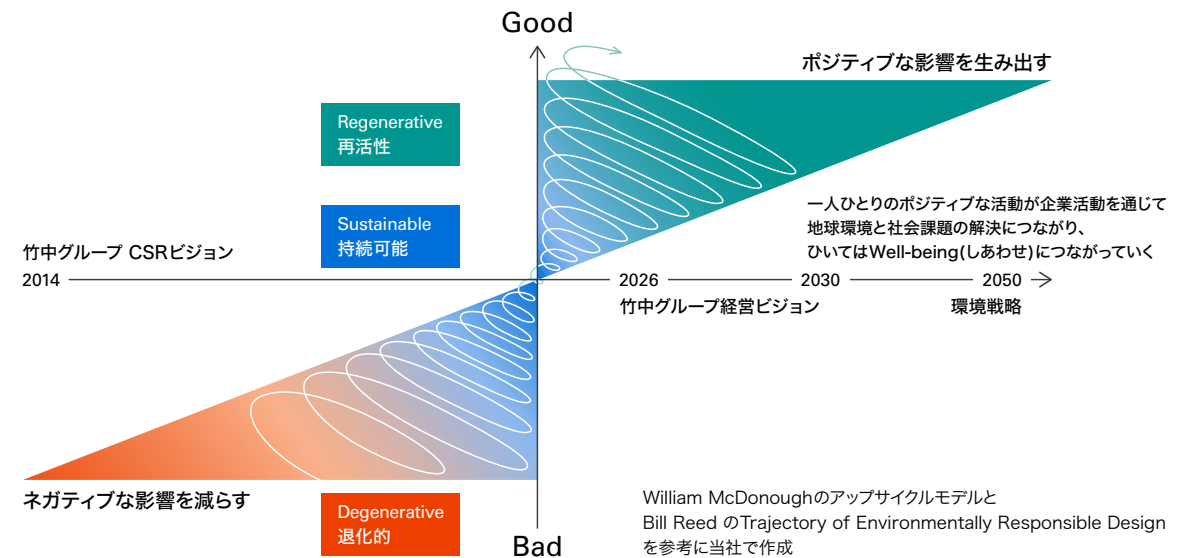
サステナブルからリジェネラティブへ

これまでの取り組み

竹中グループは2014年から2025年に至るまでのグループ成長戦略を策定し、時代や社会が要請する建築や「まちづくり」を通して、他社に先駆け早く健康・快適で豊かな暮らしや、人々の多様性を尊重したサステナブル社会の実現に貢献するとともに、地球環境への取り組みを進めてきました。これまでに「まちづくり」という概念は広く社会に浸透し、当社グループとしての取り組みもその成果として挙げられると考えています。

これからの取り組み

サステナブルという活動は、地球への環境負荷をスローダウンさせていくネガティブな影響を減らす活動でしたが、気候変動・災害・紛争・少子高齢化やテクノロジーの加速度的な発展など、社会環境は人々の予測を超えるスピードで変化を続けており、地球の限界(Planetary Boundaries)を超える時代に入りつつあります。この劇的な変化に対応していくためにはポジティブな影響を意図的に生み出していくことが不可欠です。地球をより健全で豊かな状態で未来の世代に引き継いでいくためには、人・組織・社会システムなどあらゆる領域でポジティブな影響を意図的に生み出していく「リジェネラティブ(再活性)」な考え方や姿勢を持続する必要があります。



新たな価値を創造して社会の要求にこたえるために、 「リジェネラティブ」な考え方と姿勢で重点3分野にグループで統合的に取り組む

環境共創 - 人と自然をつなぐ

- **脱炭素** 風力、地熱、バイオマス発電などのグループ再エネ発電事業の推進、ZEB建築の推進
- **資源循環** 廃棄物を生み出さない設計・施工による「サーキュラーデザインビルド®」の実現
- **自然共生** グリーンインフラ・生物多様性保全の研究開発を通じた自然共生サイトの展開
森林資源の保全・回復活動の推進



技術革新・DX - 新価値創造への挑戦

- 建設プロセスのスマート化技術
- バリューアップ提案を含む環境・豊かな暮らしを実現する商品・サービスの展開
- 事業活動及び建物・まち・人のデータを活用し新価値創造を推進
- 建設AI・ロボットを活用した建設革新
- 宇宙建築などのフロンティア領域



人材活躍 - 人づくり・場づくり

- 多様な働き方の実現による個のキャリア充実と組織活性化に向けた成長機会の創出
- DE&Iの推進による多様な人材の活躍
- 魅力づけ・エンゲージメント向上(人的資本への積極的な投資)
- 社会・事業環境の変化に対応する人材を育む
- グループ・グローバル経営基盤の強化



グループ経営ビジョンと 中期経営計画2030

リジェネラティブな概念に基づくグループ 経営ビジョンの制定

昨年、当社グループとして経営理念及び社是を始めとした体系を整理し、ビジョンや諸方針を更新しました。その中でも特に前述したグループで取り組む重点3分野とリジェネラティブの概念をもって、中長期的にグループで各事業の目指す姿と方向性を示す「グループ経営ビジョン」として改定しました。

併せて、理念・方針体系を整理したうえで、中期経営計画2030を制定しました。

中核となる事業戦略と経営基盤戦略

グループ経営ビジョンを受け、「環境戦略2050」をベースとした、グループの事業領域それぞれで「つくる・まもる・いかす」というライフサイクルの視点に立ち、中期経営計画を制定しました。

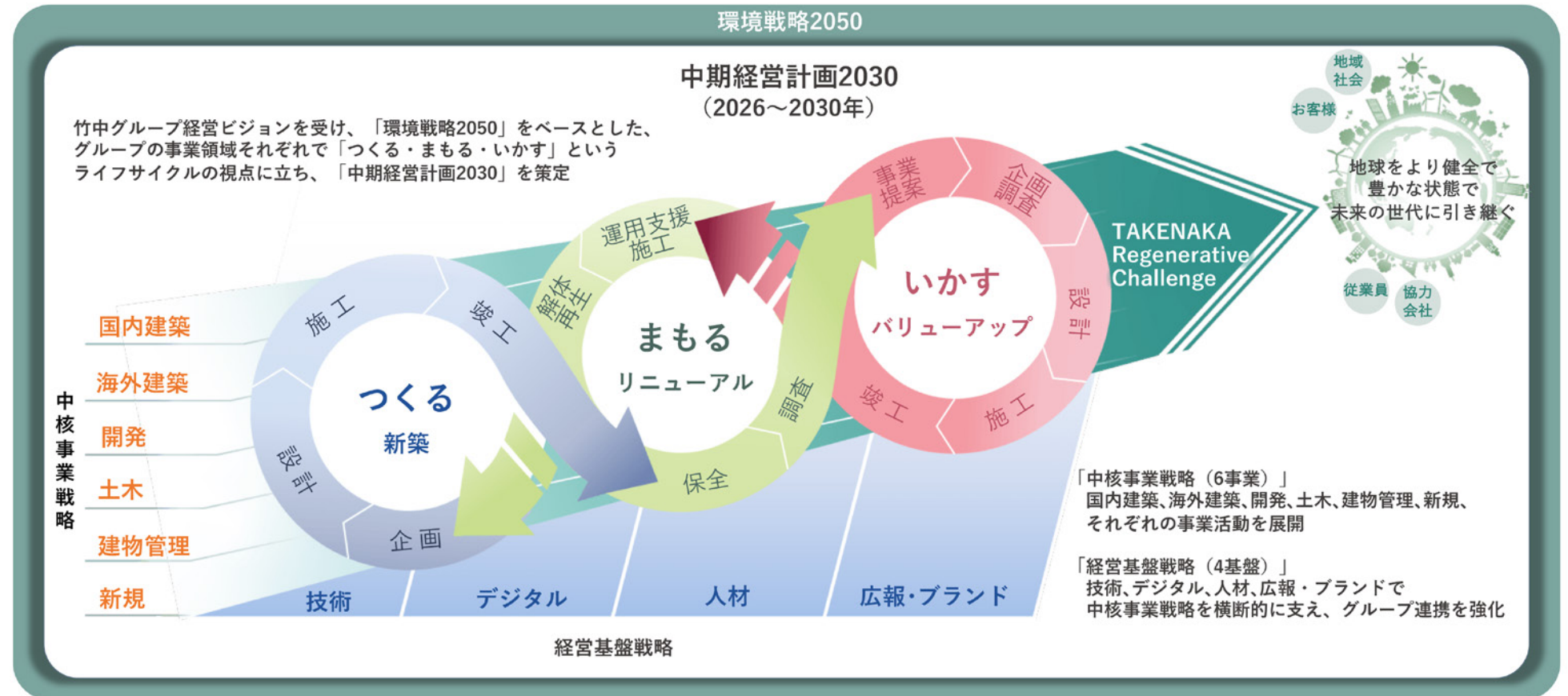
「中期経営計画2030」は、「6つの中核事業戦略」と「4つの経営基盤戦略」で構成されています。

「中核事業戦略」は、国内建築、海外建築、開発、土木、建物管理、新規において、それぞれの事業活動を展開します。

「経営基盤戦略」は技術、デジタル、人材、広報・ブランドで中核事業戦略を横断的に支え、グループ連携を強化していきます。これらの「グループ経営ビジョン」と「中期経営計画2030」を、本年1月から竹中グループで実施しています。

竹中グループ経営ビジョン

私たち竹中グループは品質の高いものづくり・サービス提供を目指すとともに地球環境の向上に挑戦しつづけます
～ TAKENAKA Regenerative Challenge ～サステナブルを超えて



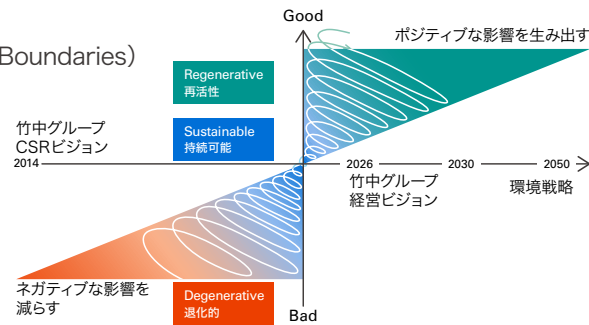
竹中グループの価値創造プロセス

INPUT: 社会環境とグループ基盤

社会環境変化に対する姿勢 ▶P9

社会環境変化

- 地球の限界 (Planetary Boundaries)
- 地球温暖化の加速
- 異常気象・自然災害の頻発・激甚化
- 少子高齢化による労働力不足
- テクノロジーの加速度的発展



竹中グループの強み

棟梁精神

作品主義

設計施工一貫

品質経営

経営理念

最良の作品を世に遺し、社会に貢献する

社是

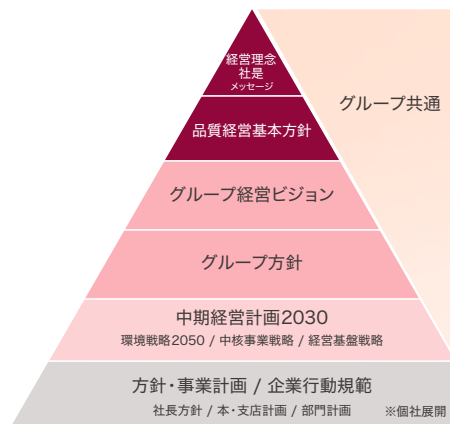
正道を履み、信義を重んじ堅実なるべし
 勤勉業に従い職責を全うすべし
 研鑽進歩を計り斯道に貢献すべし
 上下和親し共存共栄を期すべし

メッセージ

想いをかたちに 未来へつなぐ

品質経営方針

品質重視の経営に徹し
 新しい環境創造への挑戦により
 お客様満足と社会の信用を得る



ビジネスモデル

ビジョン 私たち竹中グループは品質の高いものづくり・サービス提供を目指すとともに地球環境の向上に挑戦しつづけます
 ~ TAKENAKA Regenerative Challenge ~ サステナブルを超えて

重点3分野 ▶P10

重要課題(マテリアリティ) ▶P13

- 品質の高いものづくりとサービスの提供
- 環境共創 - 人と自然をつなぐ
- 技術革新・DX - 新価値創造への挑戦
- 人材活躍 - 人づくり・場づくり

環境戦略2050・中期経営計画2030 ▶P15

4つの経営基盤戦略が支える6つの中核事業領域それぞれで「つくる・まもる・いかす」というライフサイクルの視点に立ち、グループ連携を強化していく



OUTPUT: 価値創出

目指す姿

地球をより健全で豊かな状態で
 未来の世代
 (地域社会・お客様・従業員・協力会社)に
 引き継ぐ

地域社会へ

地球の恵みを回復・再生し、豊かに暮らせる社会を創造する

お客様へ

魅力的な作品(モノ・コト)をつくり、まもり、いかし、最良の価値を提供する

従業員へ

多様な働き方を認め、働きがいの追求および適切な還元を通じ、幸せな人生の実現を支援する

協力会社へ

共存共栄をはかり、サプライチェーン全体の付加価値を向上させる

2026年からの新マテリアリティ

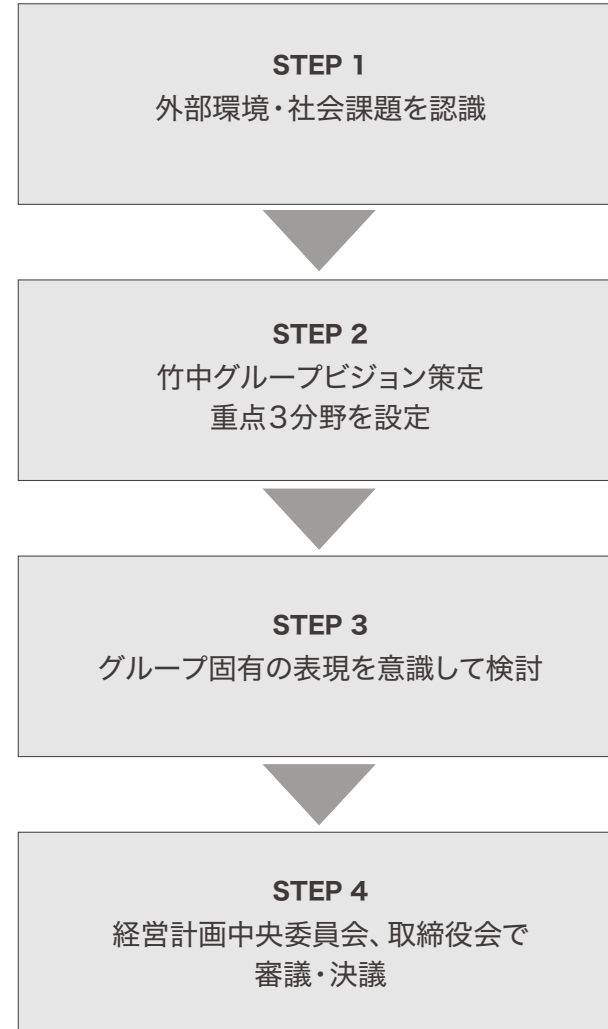
竹中グループは、新たな価値を創造して社会の要求にこたえるために「竹中グループ経営ビジョン」を制定し、「リジェネラティブ」な考え方と姿勢で、重点3分野にグループで統合的に取り組んでいきます。

中期経営計画2030を策定するにあたり、ビジョンや重点3分野から重要課題(マテリアリティ)を特定し、その実現に向けた具体的な活動計画と目標を定めて事業活動を展開していきます。

外部環境や社会課題の変化に伴い、従来の重要課題を見直し

2023年に、直近3カ年の事業計画・目標設定の枠組みから、社会・環境課題を短期・中期・長期の視点で捉え直し、当社グループの取り組むべき活動を重点的に掲げる形として、重要課題(マテリアリティ)の見直しを行いました。これは、大きく変動する企業環境を確実に捉え、より柔軟に適応しながら、目指す姿に向かって着実に歩みを進めていく考えに基づいています。また、外部からの視点をより重視するため、有識者とともに、社内の様々な立場の関係者によるダイアログを重ねて検討しました。2026年からの重要課題(マテリアリティ)の見直しにあたっては、社内の参加部門を本社17部門と4本支店、グループ各社に拡大しました。また、見直しに伴い、ビジョンから1カテゴリー、重点3分野から3カテゴリーを設定しました。この重要課題解決の取り組みを通じて、社会課題解決による持続可能な社会と当社グループの目指す姿を実現し、企業価値の向上に努めていきます。

重要課題の見直しのプロセス



重要課題のカテゴリー設定



重要課題(マテリアリティ)の指標と目標

| グループ共通 | | 竹中工務店 | |
|---|---|---|--|
| カテゴリー | マテリアリティ | 指標 (KPI) | 目標年・目標値 |
| 品質の高いものづくりとサービスの提供  | 企業価値・ブランド力の向上 | 主要社外表彰件数(設計・施工) ①BCS ②BELCA お客様満足度(CS調査) | 受賞累計数業界1位(総合建設業比較) 累計 1位 累計 1位 各年 100% |
| | 公衆災害や労働災害のない事業所の実現 | 重大な公衆災害・労働災害発生件数 | 各年 0件 |
| | 重大な品質問題の絶無 | 重大な品質問題発生件数 | 各年 0件 |
| | 持続可能なサプライチェーンの実現 | 建設技能労働者の確保・処遇改善(竹中マイスター認定人数) | 各年 1,000人以上 2025年比 技能労働者の増減(主要10職種) |
| | コンプライアンス・ガバナンス 信用第一に、広く社会規範を遵守し、良識ある企業活動の実施 | 企業倫理研修実施率 重大な法令違反件数 重大な情報セキュリティリスク事象件数 | 各年 100% 各年 0件 各年 0件 |
| 環境共創 - 人と自然をつなぐ  | 脱炭素 温室効果ガス排出の削減によるカーボンニュートラルの実現 | CO ₂ 削減率 | 2030年 Scope1+2: ▲46.2% Scope3: ▲27.5% 2050年 カーボンニュートラル【2019年基準】 |
| | 資源循環 全ての事業領域において、3つの「循環」を推進し、「サーキュラーデザインビルド®」*1を実現する | 「サーキュラーデザインビルド®」プロジェクト実施率 | 2030年 サークュラーデザインビルドACTIONS 100% (サーキュラーデザインビルドACTIONS実施件数*2 / 全プロジェクト件数*3) 2050年 サークュラーデザインビルドプロジェクト 100% (サーキュラーデザインビルドプロジェクト件数*1 / 全プロジェクト件数*3) |
| | 自然共生 ネイチャーポジティブに貢献し、自然と共生する世界の実現 | ネイチャーポジティブプロジェクト提案実施率 | 2030年 100% (ネイチャーポジティブプロジェクト件数 / 全プロジェクト件数*3) |
| | 働きがいと効率を共に高める事業プロセスのスマート化 事業価値を向上させるソリューション デジタル技術適用による価値創出 | 建設プロセスのスマート化率/件数 新価値・価値向上ソリューションの提案件数 2030年のデジタル変革目標に対する達成率 ※主に建設事業の効率化・高度化に対応 社外へのデジタルサービス計画実施率 ※主に建設周辺事業領域でのデジタル技術適用による社会・お客様への提供価値向上、新価値提供に対応 | 2030年 計画実施率100% 2030年 計画実施率100% 2030年 100% 各年 100% |
| 人材活躍 - 人づくり・場づくり  | DE&Iの推進による多様な働き方の実現による個のキャリア充実と成長機会の創出 | 4週8閉所実施率 男性の育児休業取得率 女性管理職比率 グループ間人材交流 計画実施率 | 各年 100% 各年 100% 2030年 10% 各年 100% |
| | 魅力づけとエンゲージメント向上 | 従業員意識調査(エンゲージメント レーティング) 健康経営優良法人の認定 | 2030年 A以上 各年 健康経営優良法人に認定 |
| | 人権の尊重 | 人権デュー・ティリジェンスの継続的実施の検証 | 1回/年 有識者による検証実施 |

マテリアリティと指標の設定

社会課題の抽出・評価にあたり、SDGsとの紐づけを行うとともに、大きく変動するグループを取り巻く経営環境をE(環境)、S(社会)、G(ガバナンス)の観点も踏まえ、社会の持続可能性(サステナビリティ)を意識して竹中グループとして取り組むべき重要課題を特定しています。また、その実現のために取り組む主な指標(KPI)と目標をグループ各社で設定しました。そのプロセスと実績を開示するとともに、社会環境や経営戦略を踏まえた定期的な見直しを進めていきます。

※1 サーキュラーデザインビルド: つくる循環(廃棄物を生み出さない設計・施工)、つかう循環(建築と建材を使い続ける)、つなぐ循環(まちの資源を循環する)、以上の3つの循環の施策を取り入れて実現した建築をいう。
 ※2 サーキュラーデザインビルドACTIONS: 上記3つの循環の手法の適用を検討・提案・実装のいずれかをしたプロジェクトをいう。提案に対する採否は考慮しない。
 ※3 全プロジェクト数は、当社設計・施工物件とし、諸口工事などを除く。